

ヤマトアブ

有明第二森林の作業を終えての帰路、釣井さんの車の後部座席に乗り込みました。アブが一匹車に閉じ込められていて、座席左側の窓ガラスでもがいていました。この状態では簡単に掴まえます。「有明の名水」を汲みに立ち寄った際にデジカメで撮影し、帰宅して調べまして、ヤマトアブと同定しました。



ハエ目アブ科に分類されています。ハエの仲間ですから形もお馴染みのイエバエを拡大した感じです。アカウシアブやウシアブは大きくて牛や馬にたかり吸血しますので馴染みの方は多いと思います。ヤマトアブもその仲間ですが、前2者に比べて幾分小ぶりです。

アブたちはしばしば汗臭いわれわれの廻りを飛び、隙あらば吸血されます。どういう仕掛けになっているのか素肌にハエが止まった場合は皮膚感覚で感知できますが、その10倍くらい大きいアブに止まられても感知しない場合が多いのです。ソフトランディングの極致と感嘆されられてしまいます。

以前に馬に親しんでいた時、ある馬が私に尻を近づけてきました。蹴られるか?と身構えましたが、お尻をよく見るとアカウシアブに止まられて吸血されていました。馬の意図を理解しましてアブを叩き潰してその場所を搔いてやりました。馬に感謝されたのは言うまでもありません。



2012年8月18日。有明第二森林の主な作業は作業道の刈払いでしたが、5台の刈払い機で片付けました。チシマザサの優占する場所に植樹する難事業に着手したのは2006年でした。それから6年で植樹した苗で最も成長したのはケヤマハンノキの1本で樹高は8mにもなりました。記念植樹のエゾヤマザクラこそ雪折れでリハビリ中ですが、ヤチダモたちも人丈の3倍くらいに伸びていました。自然発生の密生カバは約半数の整理伐をしてやりました。残念ながら昨年秋に植えた種、クリ、ミズナラ、ホオノキたちはクリの1本だけが芽吹いただけでした。ネズミを助けただけの結果に終わったようです。試みに山探り苗を30本くらい即植えしてきました。真夏の植え替えなので心配ですが、経過を見守りましょう。